



学校だより

9月号
横浜市立桜台小学校
令和3年9月1日発行

言葉の力 ～忘れられない一言～

校長 小宮 健

暑かった夏休みが終わり、臨時休業を経て43日ぶりに子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。緊急事態宣言発令以降も感染者数は増加し、不安が払拭されない日々が続きました。そんな中、無事に子どもたちを迎えられたのは、安全に過ごすために見守っていただいた地域の皆様、外出自粛等ご家庭で感染拡大防止にお取り組みいただいた保護者の皆様のおかげです。また、「段階的な学校再開」に向けた取組に対しましてもご理解ご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、コロナ禍の影響で開催が1年延期された東京2020オリンピック・パラリンピックでの熱き闘いは人々の感動を呼びました。無観客ではありましたが、日本中からの応援を力にして代表選手たちは躍動し、改めてスポーツの素晴らしさを実感させられました。

競技後のインタビューでは、多くのトップアスリートたちが、これまでいろいろな人たちに支えられて今の自分があるということや大会が開催されたことへの感謝の気持ちを表していました。仲間との太い絆や指導者との強固で深い信頼関係が浮き彫りにされるコメントも印象的でした。また、指導者から自ら育ててきた選手への敬意を表す「ありがとう」という言葉には心が揺さぶられました。そして、こんな感情はどこかで味わったものと同じだと気づいたのです。

——それは、私が教員になり、初めて着任した学校で数年が経った頃のことでした。

当時、担任していたクラスの保護者Aさんとの会話の中で

「A君は素直で人にとっても優しいんです。今までどうやって育てられてきたのですか…。」

と家庭での教育力を称賛し、その秘訣を伺おうとしたら、

「いやー先生、子どもが親にして（成らせて）くれるのです。子どもたちに感謝ですよ。」

とおっしゃったのです。私は、その言葉からにじみ出る「子どもへの温情と謙虚さ」に胸が一杯になったのを覚えています。

またあるときは、

「B先生の子どもを変容させていく指導力やC先生の子どもたちへ注ぐ愛情の深さは、真似できないくらい本当にすごいんです。」

と先輩の先生方に対する尊敬の念を抱く私に対して、Aさんは、

「先輩の先生をすごいと思うのは分かるし、学ぶことは大事だけれど、小宮先生はB先生でもC先生でもなく小宮先生にならなきゃいけないと思うし、そうなってほしい。」

と頼りない若輩者を激励してくれました。私はそれからずっと、その言葉を支えに「自分らしくなれたか。」と自問自答しながら生きてきました。

初任時代に出会って、大変お世話になり、私を育ててくれた保護者が遺してくれた『忘れられない一言』です。

いつの時代も、子どもたちは教師に自信を与え、時として指導の至らなさを自覚させてくれます。子ども自身の姿から学ぶこともたくさんあります。先輩方が事あるごとに呟いていた「子どもに教わる」という言葉の本当の意味を今改めて噛みしめています。

「子どもが教師にしてくれる」という気持ちを教職員同士で共有し、桜台小の子どもたちと謙虚に向き合い、教職員一人一人のよさを発揮しながら教育活動を展開してまいります。社会情勢等により今後の行事などが変更されることも考えられますが、引き続き感染予防対策を徹底してまいりますので、ご理解とご支援のほどよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、集中豪雨による一連の自然災害により被災された皆様に深くお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復旧を心からお祈りいたします。